



令和7年4月30日
千代田区立いずみこども園
園長 穴原江美

【教育目標】 元気な子ども やさしい子ども ☆考える子ども

新緑の季節、子どもたちの心が動き出すとき

乳児部 副園長 村田 靖孝

園庭の木々の緑が色鮮やかになってまいりました。新年度が始まって1か月になります。新入園の子どもたち、そしてひとつ大きなクラスに進級した子どもたちも、新しい保育室や保育者に慣れ、笑顔がたくさん見られるようになりました。元気に挨拶ができる姿が増えてきました。

園庭では、色とりどりの花が咲き、優しい春の風が吹き抜けています。花や虫、砂、水といった自然の要素が、新しい環境に緊張していた子どもたちの心を、少しずつ解きほぐしていきます。入園した子どもたちは、日に日に安心できる所を見付け、少しずつこども園に慣れていく様子が見られます。職員室では、「昨日はあんなに泣いていたのに泣かなくなったね」「表情が柔らかくなったね」と毎日変わっていく子どもたちの表情を共有し、喜びながら過ごしています。進級した子どもたちも学年が上がった喜びや自信の中で、張り切って過ごしている様子が見られます。

ある日、Aちゃんが「先生、ダンゴムシはどこにいるの?」と尋ねてきました。Aちゃんが夢中になって探していると、ダンゴムシに詳しい友だちが近付き、「こうやって枯葉をめくるといるんだよ」と教えてくれます。最近、何かをぎゅっと握りしめてくる子どもが増えてきました。その手を開くと…ダンゴムシ!にっこり笑う子どもたちの姿が、とても微笑ましく感じられます。

- 「心が動くと体が動く」幼児教育の研究者から教えていただいたこの言葉の通り、子どもたちは
- 「なんだろう?」と興味を示す。「やってみたい」「触ってみたい」と行動を起こす。
 - 「どうして?」と疑問をもつ。「**だから~なのかな」と予想を立てる。
 - 「**なんだ!」と理解する。「~するとどうなるのだろうか?」とさらに考える。
 - 新たな疑問をもつ…

このような繰り返しをしながら、自分で考え、試し、発見を積み重ねています。幼児期には、大人が頭ごなしに「違うよ」と否定したり、先回りして答えを言ったりするのではなく、「~なのかな?」「どうしてかな?」とともに考え、子どもたちが自由に思考できる環境を大切にしたいですね。

助け合いの温かさ

先日、降園時に赤ちゃんが泣き出しました。荷物をたくさん持ち、泣き止ませようと奮闘する保護者の姿を見て、在園のお母さんがそっと近付き、荷物を持ってサポートしてくださいました。こども園のお母さんたちは、困っている人を見かけると自然に手を差し伸べる——その姿に、温かな気持ちになりました。親が助け合っていく姿を見ながら育った子どもたちは、自分も困った時は周りに助けを求め、困っている人を見たら手を差し伸べることができる人として育っていくことなのでしょう。自分の親だけではなく、たくさんの人と人間的な触れ合いのある体験を積んで育っていくことができる子どもたちは幸せだと感じています。

ゴールデンウィークが始まりました。連休明けは、4月の緊張や長期休暇の疲れが出て、心身ともに不安定になることがあります。休み明けに元気に登園できるよう、生活リズムを整え、無理のないスケジュールを心がけていきましょう。皆さま、どうぞ楽しい連休をお過ごしください。新学期を頑張ってきた子どもたちの心と体を、ゆっくり休める時間となりますように。

